

平成29年度国立大学法人一橋大学年度計画



国立大学法人一橋大学

平成 29 年度 国立大学法人一橋大学 年度計画

注) □内は中期計画, 枝番は年度計画を示す。

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 教育に関する目標を達成するための措置

(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための措置

1 平成 27 年度に策定した新カリキュラムに基づき, 新しい学士課程の教育プログラムを平成 29 年度から全面的に実施する。その後, 2 年ごとの PDCA サイクルにより, 教育内容について継続的な最適化を行う。

1-1 学生一人ひとりに向き合った密度の濃い良質な教育を行うため, 平成 27 年度に策定した新カリキュラムに基づき, 新しい学士課程の教育プログラムを全面的に実施する。また, 改修後の教務システムの検証を行う。

2 各学部基幹科目の 200 人程度の大規模授業について, TA を 100% 配置する。また, 受講者数の少ない授業科目を見直し, 教育プログラムの改善を行う。

2-1 新カリキュラムの実施に合わせて, 200 人程度の大規模授業について, TA の配置を進める。

2-2 教育プログラムの改善のため, 教育委員会を中心に, 履修状況調査等に基づき, 平成 29 年度の新カリキュラムにおける非常勤講師科目及び専任教員科目の見直しを行う。

3 後期ゼミへの橋渡しとなる前期・導入ゼミを拡充するとともに, 4~16 人を目安にゼミの適正規模化を行う。

3-1 後期ゼミへの橋渡しとするために, 前期・導入ゼミの新設を含む拡充を行う。

3-2 履修状況調査等に基づき, 4~16 人を目安にゼミの適正規模化を実施する。

4 学生の興味に応じた他学部科目の履修を義務付けるなど, 4 学部の連携を強め, 深い専門性に裏打ちされた幅広い教養教育を行う。

4-1 深い専門性に裏打ちされた幅広い教養教育を行うため, 平成 29 年度の新カリキュラムにおいて, 他学部科目の履修を義務付け, 履修状況を調査する。

5 社会科学高等研究院を中核とする世界最高水準の研究と連動し, 海外から招聘した第一線の研究者による大学院生向けの特別講義・セミナーを定期的を開催するほか, 論文指導を随時行う。

5-1 グローバルに活躍できる研究者を育成するため, 海外から招聘した研究者による大学院生向けの特別講義・セミナーの定期開催, 論文指導を継続して行う。

6 グローバルに活躍できる研究者の育成を強化するため、英語によるプレゼンテーションや論文作成に資する指導を行う。また、英文校閲補助、海外旅費の一部助成などにより、大学院生の査読付き国際ジャーナルへの投稿や海外学会報告を支援する。

6-1 グローバルに活躍できる研究者の育成を強化するため、アカデミックライティング、プレゼンテーション等の英語による表現力・発信力強化のための科目を開講するとともに、英語によるプレゼンテーションや論文作成の場を提供し、指導を行う。

6-2 グローバルに活躍できる研究者の育成を強化するため、研究機構において、大学院生の英文校閲補助や海外旅費の一部助成などを継続して実施し、必要に応じて支援方法の見直しを行う。

7 学部教育と大学院教育を有機的に組み合わせた学部・大学院一貫教育を、既の実施している2学部から拡充する。また、留学を組み合わせたグローバル一貫教育システムを開始する。

7-1 学部教育と大学院教育を有機的に組み合わせた学部・大学院一貫教育を、既の実施している2学部から3学部に拡充する。また、グローバルに活躍できる研究者を育成するため、各学部において、留学を組み合わせたグローバル一貫教育システムの制度設計を開始する。

8 これまでの専門職大学院の水準と枠を超えた世界最高水準のプロフェッショナル・スクールを展開する。そのために、既存の商学研究科、法学研究科、国際企業戦略研究科を再編統合し、高い水準を有するビジネス・スクールを設立するとともに、グローバルな法務人材を育成する。また、国際・公共政策大学院を強化すると同時に、エグゼクティブ向け等の新たな社会人教育プログラムの提供や、医療経済・経営分野の人材を育成する。(戦略性が高く意欲的な計画)

8-1 これまでの専門職大学院の水準と枠を超えた世界最高水準のプロフェッショナル・スクールを展開するため、商学研究科、法学研究科、国際企業戦略研究科の再編統合計画を策定し、平成30年4月の開始に向けた設置申請を行う。また、千代田キャンパスにおいて新たに、医療経済コース・エグゼクティブプログラム、グローバルEMBAプログラムを開始する。国際・公共政策大学院においては、ダブルディグリー制度の導入に向けた検討を継続する。

8-2 ホスピタリティ産業の高度経営人材育成を目的とする教育プログラムを開発するとともに、我が国の状況に適合した教育プログラムを開発する。(戦略性が高く意欲的な計画)

8-2-1 ホスピタリティ産業の高度経営人材を育成するため、「ホスピタリティ・マネジメント高度経営人材開発センター」を開発し、教材と具体的な教育プログラムを開発する。

9 未修者教育を充実・発展させるための進級試験の実施や法曹実務家と連携した実践的教育の取組等により、高い司法試験合格率と社会的評価を維持しながら、世界で活躍できる法曹・法務人材の育成とグローバル・ロー研究を推進する。また、「理論と実務の架橋」を担う次世代の法学研究者・教員の養成サイクルを作るとともに、法曹・法務人材のリカレント教育を充実させることにより、本学の特色を生かした法科大学院モデルを発展させる。(戦略性が高く意欲的な計画)

9-1 世界で活躍できる法曹・法務人材の育成とグローバル・ロー研究を推進するため、平成30年度から本格実施するグローバル法曹・法務人材育成プログラムのカリキュラムの試行を継続し、海外ロースクール等との連携、組織のマネジメント・イノベーション戦略等も視野に入れた実践的科目の提供などの取組を実施する。また、平成27年度開始の次世代の法学研究者・教員養成事業を継続し、養成サイクルの構築を進める。

10 修了学生数や学生定員の充足状況、PD数等を総合的に評価しながら、各大学院・研究科における学生定員や教職員数の見直しを行う。

10-1 各大学院・研究科における学生定員や教職員数の見直しを進めるための評価指標に基づき、各大学院・研究科への指導を開始する。

(2) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置

11 平成29年度から、教育用システムを活用して自学自習を充実させる等、一科目における学修の充実を図ることにより、単位の実質化を徹底する。また、大学の国際化に対応できる新学期制を実施する。英語力・数学力など学士課程で必要とされるスキルの高度化を図るとともに、学生の主体的学修活動を促進するために、導入学期を創設する。カリキュラム及び学期制の運用については、留学者数やTOEFL等の学力試験を活用しながら、PDCAサイクルによる検証、改善を行う。

11-1 大学の国際化に対応し、学生の主体的学修活動を促進するために、新学期制(導入学期を含む4学期制)を開始する。英語力・数学力等の高度化を図るためのカリキュラムを設定する。英語スキル科目については、TOEFL等の学力試験を活用した教育内容の検証を行う。また、単位の実質化を徹底するため、教育用システムを活用した自主学習システムを導入する。

12 学部・研究科単位のFD活動を実施すると同時に、全学的なFD活動についても定期的実施する。また、学内外においてオープンにアクセス可能な映像講義等を、FD活動の一環としても活用する。

12-1 教育スキルの向上を図るため、各部局において、引き続きFD活動を実施する。全学的なFD活動については、新学期制導入後においてふさわしい内容として継続実施する。

12-2 教育スキルの向上を図るため、学内外においてオープンにアクセス可能な映像講義等を配信し、FD活動の一環としての活用方法を検討する。

13 情報リテラシー能力を向上させ、学生の主体的学修活動を促進するため、附属図書館の開館時間を延長するとともに、情報検索・資料収集方法習得のための講習会や読書推進活動を行う。

13-1 学生の主体的学修活動を促進するため、附属図書館の開館時間を拡充するとともに、情報リテラシー能力向上のための講習会の開催やブックトーク等の読書推進活動及び学生協働事業を促進する。

(3) 学生への支援に関する目標を達成するための措置

14 就職説明会の開催やインターンシップ情報の提供等、学生への就職支援を展開する。また、卒業生の就職状況に関する継続的な情報収集を行い、就職支援や教育研究にフィードバックする。

14-1 グローバル企業や東証上場の企業、政府関係機関などへの就職に関する支援を充実させるため、引き続き、就職説明会の開催やインターンシップ情報の提供等による学生への就職支援を実施する。

14-2 就職支援や教育研究にフィードバックするため、卒業生の就職状況について継続的な情報収集を行いつつ、キャリア支援室の利用状況・就職支援イベントへの参加状況を従来よりもきめ細かく収集する。

15 経済的格差の拡大に対し、基金への寄附を募り、奨学金等の支援策を充実させる等の改善を行う。また、GPAを奨学金支給のための評価基準に組み込む。

15-1 経済的格差の拡大に対し、奨学金等の支援策を充実させる等の改善を行うため、「一橋大学修学支援事業基金」を含む大学基金の事業等についてまとめた新しいパンフレットの発行・配付、さらにはその他広報媒体を通じた修学支援事業基金の周知により基金のPR活動を展開し、広く寄附を募る。

15-2 GPAを奨学金支給の評価基準に組み込むため、他大学における評価基準について引き続き情報収集を行うとともに、評価基準の見直しに向けた検討を開始する。

16 障害のある学生やメンタルケアを必要とする学生等を効果的に支援するために、既存の学生相談室、障害学生支援室、保健センター等の組織や役割を見直す。

16-1 障害のある学生やメンタルケアを必要とする学生等を効果的に支援するため、学生相談室、障害学生支援室、保健センター等の新たな体制により、学生相談、支援を継続的に実施する。

(4) 入学者選抜に関する目標を達成するための措置

17 学部入試における各科目の得点率と入学後の GPA, ゼミナールでの学業成績, 就職状況等との相関関係を分析しながら, 多様な評価基準を用いる推薦入試制度を全学部へ導入する。(戦略性が高く意欲的な計画)

17-1 多面的・総合的な入学者選抜を行うため, 多様な評価基準を用いる推薦入試制度を全学部へ導入する。入試データと教学データによる入試区分と成績評価の分析を進め, 入試制度の見直しを開始する。また, 大学入試センター試験に代わる試験の活用方法等について検討する。

2 研究に関する目標を達成するための措置

(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標を達成するための措置

18 世界水準の研究を各研究者が推進し, その成果について研究分野ごとに, 査読付論文数, うち英語論文数, 総論文数, 著書数等の数値目標を示し, それを達成する。

※ 研究分野ごとの数値目標は別記 (戦略性が高く意欲的な計画)

18-1 ※研究分野ごとの数値目標は別記

19 国内又は外国において, 国際会議, シンポジウム等を6年間で200回以上開催する。

19-1 国際会議等を通じて, 研究成果の国内外への迅速な発信を行うため, 国際会議, シンポジウム等を平成28年度から累計60回以上開催する。

20 学術情報基盤を整備するとともに, 機関リポジトリの閲覧件数を増やすため, オープンアクセスポリシーの策定, 国際優良誌に掲載された論文の登録, コンテンツの拡充などを実施する。また, 一橋ジャーナル等, 本学が発行する学術誌については, 国際的評価の高いデータベースへの搭載を進める。

20-1 研究成果の国内外への迅速な発信を行うため, 図書館資料の収集保存, 利用環境, 電子的サービス等の機能強化を図り, 学術情報基盤としての附属図書館を整備するとともに, 機関リポジトリの整備事業の一環として, オープンアクセスポリシーを策定する。また, 一橋ジャーナル等, 本学が発行する学術誌について, 国際的評価の高いデータベースへの搭載を進める。

21 急速なグローバル化に伴い再構築を必要としている世界経済システムの新たな設計に資するため, 一橋大学が強みをもつ国際経済, 開発経済, ファイナンス, イノベーション, 国際政治, 経済規範等の研究者を社会科学高等研究院に結集し, 経済システムの理論・実証分析を推進して, 世界及び日本の持続的発展を実現するための政策提言に結び付ける。(戦略性が高く意欲的な計画)

21-1 急速なグローバル化に伴い再構築を必要としている世界経済システムの新たな設計に資するため, 本学が強みをもつ重点領域の4分野(国際経済, 開発経済, ファイナンス, 経済規範)における研究プロジェクトについて, 成果をまとめ, 成果報告の準備を開始する。

22 人口の超高齢化によって深刻化する医療・介護及び医療経営の問題の解決に貢献するため、経済、経営、会計、労務、社会保障、法務等の研究者により、医療経済・経営問題の総合的研究を行い、その研究成果を政策提言するとともに、プロフェッショナル・スクールにおける教育に活用する。(戦略性が高く意欲的な計画)

22-1 人口の超高齢化によって深刻化する医療・介護及び医療経営の問題の解決に貢献するため、大規模調査データを活用した医療政策に関する実証研究や医療統計分析の新たな手法の開発を進める。また、医療政策・経済研究センターと他大学及び海外を含めた外部の研究機関等との教育研究連携に向けて調整を行う。

23 日本の活性化のために不可欠な組織経営の革新を実現するため、日本の組織を対象に実学的な実証研究を行い、組織経営の持続的革新を先導するマネジメント・イノベーション研究を展開し、国内外への実効性のある提言を行うとともに、プロフェッショナル・スクールにおける教育に活用する。(戦略性が高く意欲的な計画)

23-1 日本の活性化のために不可欠な組織経営の革新を実現するため、マネジメント・イノベーション研究センターを中心に研究を継続する。また、教材として使用する統計プログラム、シミュレーション・モデル、ケース、ノート等を蓄積する仕組みを検討する。

(2) 研究実施体制等に関する目標を達成するための措置

24 公正な評価に基づいて女性研究者を積極的に採用し、6年間を通じた全学における女性教員採用比率を平均20%以上にする。

24-1 本学の有する潜在的な教育研究力を高めるため、全学の教員人件費管理計画を踏まえ、各部署において、女性教員を積極的に採用する。

25 グローバル化を推進するため、国際公募等の活用により、全学における外国人教員の在籍比率を6%以上にする。

25-1 グローバル化を推進するため、全学の教員人件費管理計画を踏まえ、各部署において、外国人教員を積極的に採用する。

26 テニユアトラック制度や、年俸制の任期付研究員、社会科学高等研究院等を活用しながら、40歳未満の若手研究者の採用を拡充する。

26-1 より多くの若手研究者の育成に努め、本学の有する潜在的な教育研究力を高めるため、全学の教員人件費管理計画を踏まえ、各部署において、若手研究者を積極的に採用する。

27 サバティカル制度や、社会科学高等研究院を活用し、一定期間、研究に専念できる若手研究者を増加させる。

27-1 一定期間、研究に専念できる若手研究者を増加させるため、各部署において、サバティカル制度や、社会科学高等研究院を活用し、若手研究者が研究に専念できる体制を整備する。

28 若手研究者向けの研究費，論文校閲経費及び国際学会報告経費の支援や，長期の海外派遣事業の推進など，若手研究者を主たる対象とする研究支援体制を整備する。

28-1 より多くの若手研究者の育成に努め，本学の有する潜在的な教育研究力を高めるため，研究機構において，研究論文校閲経費や国際学会等報告経費助成など若手研究者を主たる対象とする研究支援体制を整備し，支援を行う。

3 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標を達成するための措置

29 産学官連携推進本部等を活用しながら，民間企業・公的機関等からの受託及び共同研究を増加させる。

29-1 民間企業・公的機関等からの受託及び共同研究を増加させるため，各部局において，産学官連携活動を推進し，受託及び共同研究の増加策を実施する。また，平成28年度に産業技術総合研究所と締結した包括連携協定に基づき，具体的な連携事業について協議を進める。

30 政府機関，産業界への積極的な助言活動を行い，地域社会との連携を強めることによって，政府をはじめとする審議会・研究会等の委員を年間延べ500人以上とする。

30-1 政府機関，産業界への積極的な助言活動を行い，地域社会との連携を強めることによって，産学官連携活動等を推進するため，引き続き，審議会・研究会等への委員としての参画を促進する。

4 その他の目標を達成するための措置

(1) グローバル化に関する目標を達成するための措置

31 学部・大学院一貫で，チューニングやナンバリングの作業を実施し，国際通用性のあるカリキュラムを整備する。

31-1 国際通用性のあるカリキュラムを整備するため，各部局において，チューニングやナンバリングの作業を進める。

32 各学部・研究科のディプロマポリシー，カリキュラムポリシー，アドミッションポリシーに沿って，グローバル人材育成のためのプログラム体系を明確にする。また，一橋大学の特徴を生かしたグローバル・リーダーズ・プログラム（GLP）を全学部に拡大する。

32-1 グローバル人材を育成するため，一橋大学の特徴を活かしたグローバル・リーダーズ・プログラム（GLP）を全学部で実施する。

33 実践的な英語能力を向上させるため，全学的に英語コミュニケーション・スキル科目の必修単位数を8単位に増加させる。

33-1 実践的な英語能力を向上させるため，新カリキュラムの導入に伴い，英語コミュニケーション・スキル科目の必修単位数を8単位に増加させる。

34 学部の専門科目のうち 100 科目以上を英語で提供するとともに、大学院における教育でも英語による教育科目を増加させ、グローバルに活躍できるプロフェッショナルと研究者を育成する。

34-1 グローバルに活躍できるプロフェッショナルと研究者を育成するため、学部の専門科目のうち 100 科目以上を英語による講義として開講することについての検討を行う。また、各研究科において、大学院における英語による教育科目を増加させるための検討を進める。

35 多様なプログラムを体系的に位置づけ、新たなグローバル教育ポートフォリオを設計し、平成 33 年度までに、下記項目の a. を含む 2 項目以上を必修とする。

- a. 初年次英語スキル教育（全学生）
- b. 短期語学留学
- c. 語学集中研修
- d. 短期海外留学（サマースクール）
- e. 長期海外留学
- f. 海外インターン
- g. ゼミを中心とした海外調査・インターゼミ等（戦略性が高く意欲的な計画）

35-1 意欲と能力のある学部生全員に対して、高い質を担保した海外留学、海外調査、語学研修等の機会を提供するため、新たなグローバル教育ポートフォリオを設計し、下記項目の a. を含む 2 項目以上を必修とする。

- a. 初年次英語スキル教育（全学生）
- b. 短期語学留学
- c. 語学集中研修
- d. 短期海外留学（サマースクール）
- e. 長期海外留学
- f. 海外インターン
- g. ゼミを中心とした海外調査・インターゼミ等

36 留学生の受入体制の強化や、学内外においてオープンにアクセス可能な映像講義等を活用した広報活動を通じて、短期及び中長期の受入留学生数を増加させる。

36-1 短期及び中長期の受入留学生数を増加させるため、留学生の受入体制強化のための取組として留学フェアへの参加、現地大学での留学説明会などを実施するとともに、映像講義等を活用した広報活動を実施する。

37 国立大学共同利用・共同研究拠点としての経済研究所の機能を一層強化し、他大学・機関と連携しつつ、日本のみならず世界経済の高度実証分析を担うため、多数の国際・国内共同研究プロジェクトを推進する。平成 26 年時点で約 20 件の共同研究プロジェクト事業を平成 33 年度末までに倍増させる。

37-1 日本のみならず世界経済の高度実証分析を担うため、国際的な共同利用・共同研究拠点としての経済研究所の機能強化及び他大学・他機関等との連携強化を行い、国際・国内共同研究プロジェクト事業を 25 件以上実施する。

38 世界水準の教育と研究を行っている海外の大学・研究機関と、150 以上の学術交流協定等を新規に締結あるいは更新する。

38-1 教育研究ネットワークをさらに拡充するため、平成 28 年度から累計 40 以上の学術交流協定等を新規に締結あるいは更新する。

39 東京医科歯科大学、東京外国語大学、東京工業大学、一橋大学で構成される四大学連合をはじめとする他大学との教育研究連携について、これまでの実績を精査し、新たなプロジェクトを企画する。

39-1 教育研究ネットワークをさらに拡充するため、他大学との教育研究連携について、連携講義等を継続して実施するとともに、これまでの実績を精査し、新たなプロジェクトの検討を開始する。

40 世界大学ランキングの社会科学分野での順位を 100 位以内に向上させる。また、経済学部門でのランキングを 50 位以内に、会計・金融部門での順位を 100 位以内に向上させる。

40-1 世界最高水準の教育研究拠点として国際的に高い評価を獲得するため、URA を中心に世界大学ランキングの情報収集及び分析を行い、ランキングの向上のための方策を検討する。

41 高品質なビジネス教育プログラム・研究を行っているスクールに対して与えている国際認証評価（AACSB）を取得・維持する体制を確立する。（戦略性が高く意欲的な計画）

41-1 国際認証評価（AACSB）を取得・維持する体制を確立するため、AoL（Assurance of Learning: 学びの質保証）を実施し、当該カリキュラム全体としての有効性を評価する。

Ⅱ 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 組織運営の改善に関する目標を達成するための措置

42 年2回程度を目安に学長見解を学内外に公表する。大学改革の方向性や重点的取組、現在までの進捗状況を明らかにすることによって、学長の改革方針を貫徹する。

42-1 学長の改革方針を貫徹するため、年2回程度の学長見解を通じて、大学改革の方向性や重点的取組、現在までの進捗状況を明らかにすることにより、学長の改革方針に基づく取組を進めていく。

43 役割が重複する各種学内会議の統廃合といった学内手続の簡素化を行う。また、役員会、経営協議会の開催時間や議題事項の見直しなど運用方法を改善し、理事や監事をはじめとする様々な学外者の意見を、法人運営により適切に反映させる。

43-1 学内の主要な委員会等について、前年度の分析結果を踏まえ、必要に応じてその機能や運営方法の見直しを行う。

44 承継職員ポストをはじめとして、年俸制の拡大と有効活用を進める。

44-1 教職員の意欲と能力を最大限引き出しうる人事評価・給与制度を構築し、能力実績主義をさらに進めるため、承継職員ポストをはじめとして、年俸制を継続して実施する。

45 人事評価に関する評価体制や評価項目を見直して、教職員の人事評価制度を改善し、評価結果を勤勉手当の成績率や昇給号俸に、より適正に反映させる。

45-1 教職員の人事評価制度を改善し、評価結果を勤勉手当の成績率や昇給号俸に、より適正に反映させるため、人事評価に関する評価体制や評価項目の現況分析を踏まえ、教職員の人事評価制度の見直しの検討を行う。

46 大学経営を担う総務部、財務部の課長以上の管理職ポストについて内部登用を進める。また、女性役員を登用するとともに、課長代理以上のポストについて、女性職員数を平成33年度末までに倍増させる。

46-1 大学経営のプロフェッショナルを育成するため、大学経営を担う管理職ポストについて内部登用を進める。また、課長代理以上のポストに女性職員を新たに登用する。

47 大学経営のプロフェッショナルを育成するため、全ての職員を対象に、専門的研修、政府機関・他大学・民間企業等との人事交流、留学や大学院への進学、教育研究プロジェクトへの参加などを通じて、職員の複線型キャリアパスを構築する。

47-1 大学経営のプロフェッショナルを育成するため、キャリアパスについての現況分析を踏まえ、全職員を対象とした複線型キャリアパスを構築するための方策を検討する。

2 教育研究組織の見直しに関する目標を達成するための措置

48 学内組織を恒常的に検証し、各種センターや大学院事務等、細分化された組織の統合を行うことで、その機能を強化する。

48-1 事務組織及び学内各種センターの機能を強化するため、前年度に実施した現況分析に基づき、再編・統合策の検討を進める。特に、平成30年度からの研究科の再編統合を踏まえ、千代田キャンパス事務部の新設に向けて取り組む。

49 必要な分野に教職員を重点的に配置するため、退職者ポストの補充については、その必要性をゼロベースで検証する。特に、助手ポストについては、不補充を徹底し、その業務を仕分けしたうえで、若手教員ポスト等として有効に活用する。

49-1 必要な分野に教職員を重点的に配置するため、全学の教員人件費管理計画を実施するとともに、平成28～29年度の教員ポスト配置の実績を分析し、必要に応じて教員人件費管理計画を改定する。

3 事務等の効率化・合理化に関する目標を達成するための措置

50 中期財政見直しにおいては、学内における資源配分を最適化するため、収入額及び人件費を中心とした支出額の推移を試算、管理する。

50-1 学内における資源配分を最適化するため、中期財政見直しに基づく学内予算配分を実施し、収入額及び人件費を中心とした支出額の推移を管理する。また、必要に応じて中期財政見直しを改定する。

Ⅲ 財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加に関する目標を達成するための措置

51 科研費審査委員経験者によるアカデミックアドバイスなど支援体制の充実により、高い採択率を維持しながら、科研費の応募率を第2期中期目標期間の平均応募率よりも5ポイント増加させる。

51-1 科研費等の外部研究資金により教育研究のための財政基盤を強化するため、科研費の応募率を第2期中期目標期間の平均応募率より累積2ポイント増加させる。

52 各種事業を遂行するため、企業やOB・OGに積極的に協力を働きかけるとともに、入学式等学内行事におけるPR活動を強化すること等により一橋大学基金を含む寄附金を増加させる。

52-1 一橋大学基金を含む寄附金をさらに増加させるための方策を引き続き検討し、入学式と同日に開催される保護者説明会で大学基金の紹介を行うほか、新たに発行した大学基金パンフレットの送付等により卒業生への働きかけを強化するなどの取組を実施する。

2 経費の抑制に関する目標を達成するための措置

53 経常経費の支出内訳を分析し、その一部にシーリング枠を設ける。また、業務委託の促進や契約手法の見直し等を行い、学長裁量経費を確保する。

53-1 経常経費の効率化・合理化を行うため、経常経費を分析し、必要に応じて一部にシーリング枠を設ける。また、他大学との共同調達を引き続き実施するとともに、業務委託の促進や複数年契約の活用等、契約手法の見直しを行う。

3 資産の運用管理の改善に関する目標を達成するための措置

54 資産について、資産の必要性や売却可能性、収益率、稼働率を検証し計画的な維持・管理を行う。

54-1 保有資産を有効に活用するため、保有資産の稼働率や必要性について検証し、計画的な維持・管理及び第三者への貸付を行う。また、寄附金の運用対象範囲が拡大されたことを踏まえ、資金運用方針について資金運用委員会（仮称）を設置する等、運用体制の見直しを行ったうえで資金運用を行うとともに、引き続き、他大学との共同運用を行う。加えて、保有する一橋講堂の稼働率を高め、それにより収入を確保するためにキャンセル条件の強化を行う。

IV 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 評価の充実に関する目標を達成するための措置

55 PDCA サイクルにより、プログラムや組織の見直し等について自己点検・評価を活用し、その結果を着実に改善に結びつける。

55-1 PDCA サイクルにより自己点検・評価を行うことで、プログラムや組織の見直し等を実施し、その結果を改善に結びつける。

2 情報公開や情報発信等の推進に関する目標を達成するための措置

56 入試説明会やオープン・キャンパス、新聞掲載など、これまでの広報戦略について検証を行い、より戦略的な広報プランを策定する。

56-1 戦略的な広報活動を行うため、入試広報を含めたプランを策定するとともに、広報戦略の分析結果を踏まえ、費用対効果のより高い広報活動を行う。

V その他業務運営に関する重要目標を達成するためにとるべき措置

1 施設設備の整備・活用等に関する目標を達成するための措置

57 インフラ長寿命化の観点から、キャンパスマスタープランの充実及び老朽施設の更新、利用状況を踏まえた施設の効率的な活用を進めつつ、他学部科目の履修増大等に対応しうよう教育環境整備を進める。

57-1 インフラ長寿命化の観点から、キャンパスマスタープラン及びインフラ長寿命化計画（行動計画）に基づき、施設の効率的な活用を推進する。また、東西キャンパスにおける映像配信等授業の需要を把握し、遠隔授業の実施に向けた検討や、千代田キャンパスにおける教室等の整備により、教育環境整備を進める。

58 無線 LAN 環境及びキャンパスネットワークの更新等、情報基盤設備の継続的・計画的な整備を実施する。

58-1 情報基盤設備を継続的・計画的に整備するため、現行無線 LAN 設備の構成機器等の製品寿命（End of Life）や利用状況等の分析結果を踏まえ、更新・整備方針を決定する。

2 安全管理に関する目標を達成するための措置

59 大規模災害時における危機管理体制を構築するとともに、危機管理のための訓練を毎年定期的実施し、危機管理に対応するマニュアルを年に1回以上見直し、必要な改訂を行う。

59-1 キャンパス内の建物や設備等について、危険箇所を確認し、必要に応じ改善・整備を行う。また、年1回以上総合防災訓練・防災管理定期点検・安全パトロールを実施するとともに、備蓄品の点検や危機管理対応マニュアルの見直しを行うなど危機管理体制を強化する。

60 海外渡航中の学生や教職員に対する連絡体制・各種判断基準の見直し・不測及び緊急事態の対応案策定等、危機管理体制を確立する。

60-1 海外渡航中の学生や教職員に対する危機管理体制の構築に向けて、平成28年度に創設した「海外危機管理マニュアル等の検討ワーキンググループ」において他大学の例を調査しながら検討を進める。

61 大規模災害やサイバーセキュリティインシデント等の不測の事態が発生した後においても、事業の継続を図り、社会への役割を果たすため、事業継続計画（BCP）を策定する。

61-1 大規模災害やサイバーセキュリティインシデント等に対応できるよう、事業継続計画（BCP）及びICT関係業務に関する事業継続計画（IT-BCP）に係る調査結果を踏まえ、計画策定のための検討を開始する。

3 法令遵守等に関する目標を達成するための措置

62 適正な法人運営のためのコンプライアンスを推進し、業務プロセスにおけるチェック体制、牽制体制の有効性について年1回以上監査を行う。

62-1 適正な法人運営のためのコンプライアンスを推進し、業務プロセスに着目した業務監査を1回以上実施するとともに、チェック体制、牽制体制の有効性を検証する。

63 「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）」（平成26年2月18日改正文部科学大臣決定）に基づき平成27年度に整備した体制のもとで関連規則等に基づく防止策を実施する。

63-1 公的研究費の不正使用防止を徹底するため、関係規則に基づく防止策として、研究費不正使用防止計画を策定し、実施する。また、教職員に対するe-learning等を活用した研究倫理教育や、リスクアプローチの手法に基づく会計監査を継続して実施するとともに、取引業者との癒着等を防止するため、事前に誓約書を徴収するなど全学的・組織的な取組を推進する。なお、必要に応じて公的研究費等使用ハンドブックの更新を行う。

64 「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」（平成26年8月26日文部科学大臣決定）に基づき平成27年度に整備した体制のもとで、関連規則等に基づく防止策を実施する。

64-1 研究活動における不正行為防止を徹底するため、関連規則に基づく研究不正防止策として、教職員に対しe-learning等を活用した研究倫理教育を継続して実施する。

VI 予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画

別紙参照

VII 短期借入金の限度額

○ 短期借入金の限度額

1 短期借入金の限度額

1,414,349 千円

2 想定される理由

運営費交付金の受け入れ遅延及び事故の発生等により緊急に必要となる対策費として借り入れることが想定されるため。

VIII 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画

○ 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画

1 重要な財産を譲渡する計画

- ・富浦臨海寮の土地及び建物（千葉県南房総市富浦町南無谷 45 番）を譲渡する。
- ・妙高町田山寮の土地及び建物（新潟県妙高市関川 2251-9）を譲渡する。
- ・相模湖艇庫（神奈川県相模原市緑区吉野 186）の船舶（3 艇）を譲渡する。
- ・戸田艇庫（埼玉県戸田市戸田公園 5-38）の船舶（4 艇）を譲渡する。

2 重要な財産を担保に供する計画

計画の予定なし

IX 剰余金の使途

決算において剰余金が発生した場合は、「教育研究の質の向上及び組織運営の改善」に充てる。

X その他

1 施設・設備に関する計画

（単位：百万円）

施設・設備の内容	予定額（百万円）	財 源
ライフライン再生（給水設備）	総額 118	施設整備費補助金 (96)
小規模改修		(独) 大学改革支援・学位授与 機構施設費交付金 (22)

注) 金額は見込みであり、上記のほか、業務の実施状況等を勘案した施設・設備の整備や、老朽度合い等を勘案した施設・設備の改修等が追加されることもあり得る。

2 人事に関する計画

1. 人員の確保

- 1) 承継職員ポストをはじめとして、年俸制を継続して実施する。
- 2) 大学経営を担う管理職ポストについて内部登用を進める。
- 3) 課長代理以上のポストに女性職員を新たに登用する。
- 4) 大学経営のプロフェッショナルを育成するため、全職員を対象とした複線型キャリアパスを構築するための方策を検討する。

2. 人件費管理

- 1) 平成 28～29 年度の教員ポスト配置の実績を分析し、必要に応じて教員人件費管理計画を改定する。

(参考 1) 平成 29 年度の常勤職員数 564 人
また、任期付職員数の見込みを 53 人とする。

(参考 2) 平成 29 年度の人件費総額見込み 6,271 百万円 (退職手当は除く。)

(別紙) 予算 (人件費の見積りを含む。), 収支計画及び資金計画

1. 予算

平成 29 年度 予算

(単位：百万円)

区 分	金 額
収 入	
運営費交付金	5,928
施設整備費補助金	300
補助金等収入	203
大学改革支援・学位授与機構施設費交付金	22
自己収入	3,762
授業料及び入学科検定料収入	3,460
財産処分収入	0
一橋講堂収入	140
雑収入	162
産学連携等研究収入及び寄附金収入等	1,521
目的積立金取崩	272
計	12,008
支 出	
業務費	9,962
教育研究経費	9,962
施設整備費	322
補助金等	203
産学連携等研究経費及び寄附金事業費等	1,521
計	12,008

[人件費の見積り]

期間中総額 6,271 百万円を支出する。(退職手当は除く。)

2. 収支計画

平成 29 年度 収支計画

(単位：百万円)

区 分	金 額
費用の部	
經常費用	11,297
業務費	10,104
教育研究経費	2,962
受託研究費等	344
役員人件費	87
教員人件費	4,901
職員人件費	1,810
一般管理費	997
財務費用	0
雑損	0
減価償却費	196
臨時損失	0
収入の部	11,297
經常収益	11,297
運営費交付金収益	5,807
授業料収益	2,717
入学金収益	458
検定料収益	115
受託研究等収益	344
補助金等収益	203
寄附金収益	1,155
施設費収益	0
財務収益	0
雑益	302
資産見返運営費交付金等戻入	100
資産見返補助金等戻入	42
資産見返寄附金戻入	54
資産見返物品受贈額戻入	0
臨時利益	0
純利益	0
総利益	0

3. 資金計画

平成 29 年度 資金計画

(単位：百万円)

区 分	金 額
資金支出	18,162
業務活動による支出	11,414
投資活動による支出	322
財務活動による支出	0
翌年度への繰越金	6,426
資金収入	18,162
業務活動による収入	11,414
運営費交付金による収入	5,928
授業料及び入学金検定料による収入	3,460
受託研究等収入	344
補助金等収入	203
寄附金収入	1,177
その他の収入	302
投資活動による収入	322
施設費による収入	322
その他の収入	0
財務活動による収入	0
前年度よりの繰越金	6,426

別表 (学部の学科, 研究科等の専攻等の収容定員)

商学部	経営学科 商学科	548 人 552 人
経済学部	経済学科	1,100 人
法学部	法律学科	680 人
社会学部	社会学科	940 人
商学研究科	経営・マーケティング専攻 (うち修士課程 142 人, 博士後期課程 39 人) 会計・金融専攻 (うち修士課程 94 人, 博士後期課程 27 人)	181 人 121 人
経済学研究科	経済理論・経済統計専攻 (うち修士課程 48 人, 博士後期課程 30 人) 応用経済専攻 (うち修士課程 40 人, 博士後期課程 24 人) 経済史・地域経済専攻 (うち修士課程 36 人, 博士後期課程 24 人) 比較経済・地域開発専攻 (うち修士課程 16 人, 博士後期課程 12 人)	78 人 64 人 60 人 28 人
法学研究科	法学・国際関係専攻 (うち修士課程 30 人, 博士後期課程 78 人) 法務専攻 (うち専門職学位課程 255 人)	108 人 255 人
社会学研究科	総合社会科学専攻 (うち修士課程 140 人, 博士後期課程 105 人) 地球社会研究専攻 (うち修士課程 40 人, 博士後期課程 18 人)	245 人 58 人
言語社会研究科	言語社会専攻 (うち修士課程 98 人, 博士後期課程 63 人)	161 人
国際企業戦略研究科	経営法務専攻 (うち修士課程 56 人, 博士後期課程 60 人) 経営・金融専攻 (うち専門職学位課程 198 人, 博士後期課程 24 人)	116 人 222 人
国際・公共政策教育部	国際・公共政策専攻 (うち専門職学位課程 110 人)	110 人

【I-2-(1)-18-1】 研究分野ごとの数値目標

世界大学ランキング (QS 2015) 研究分野	著書数	総論文数	査読有論文	
				英語論文
Accounting & Finance	-	-	30(100)	15(50)
Business & Management Studies	25(80)	-	40(130)	25(80)
Economics & Econometrics	-	-	145(450)	90(300)
Law	50(170)	180(600)	-	-
全分野	210(700)	810(2,700)	285(950)	165(550)

注) 数値は平成 28 年度からの累積。括弧内は 6 年間の数値目標。

全分野：世界大学ランキング (QS 2015) の全ての分野が対象。目標値は上記 4 分野の数値を含む。